

支所地域における今後のまちづくりについて(案)

参考

1. 現状

- ◆全市的に進む人口減少・少子高齢化で、地域の担い手が減少し、集落機能や地域の活力が低下。また、人口減により職員数も減少している
- ◆合併の不安解消や地域の声をまちづくりに活かすため「長岡方式の地域自治」として支所と地域委員会を設置したが、16年が経過するなかコミュニティ協議会やNPOなど新たな組織が設立された
- ◆地域の状況が大きく変化するなか、地域の課題も多様化している
- ◆新型コロナウイルスにより地方分散の流れや価値観の変化も生まれている

2. 目指す地域像

- ・住民が安全・安心に住み続けられる地域
- ・地域の個性を活かし、将来に向け新たな価値を生み出していく地域

3. 基本的な考え方

①コミュニティ機能の強化

- ・新たなコミュニティ推進組織の構築と拠点となる施設の整備
- ・現在の地域活動の維持、拠点との連携強化
- ・多様な声を聴く仕組み、活動へのアドバイス・相談できる仕組みの強化
(例:地域交流会、SNS活用、出前相談会等)
- ・気軽に集う、語らう居場所づくり(例:よったかり場、若者の居場所づくり等)

②新しい価値を追求し、希望を持ち続けられる施策・体制の強化

- ・豊かな自然環境の中でICTを活かした移住・定住人口の創出(サテライトオフィスなど)
- ・地域の宝や歴史・文化の新たな活用・価値の創出
- ・地域資源のブランド化・ビジネス化の支援

③10支所を維持し、業務の再構築により市民サービスを向上

- ・災害対応、窓口業務等、生活に密着した(住民の関心が高い)業務は引き続き支所で対応するとともに、ICTの活用等により市民サービスを向上
- ・事務の効率化や集約化を進め、暮らしを守り、地域の振興や活性化を図る拠点として再構築
- ・機能や業務に見合った適正な職員配置と機動的で柔軟な組織体制

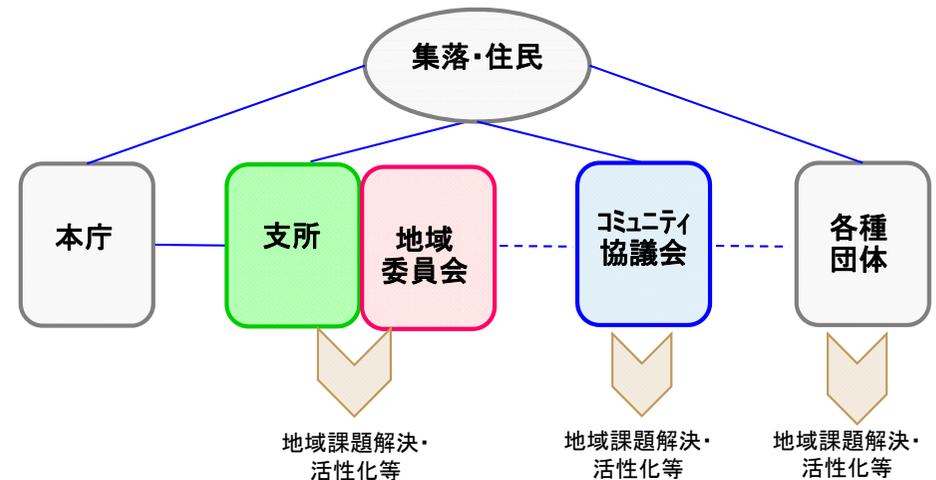
④オール長岡としての調和と連帯の強化

- ・長岡地域と支所地域、各地域同士が連携した魅力の発信・まちづくり体制の構築
- ・オール長岡の発展に寄与する産業・生活基盤等の整備

4. スケジュール

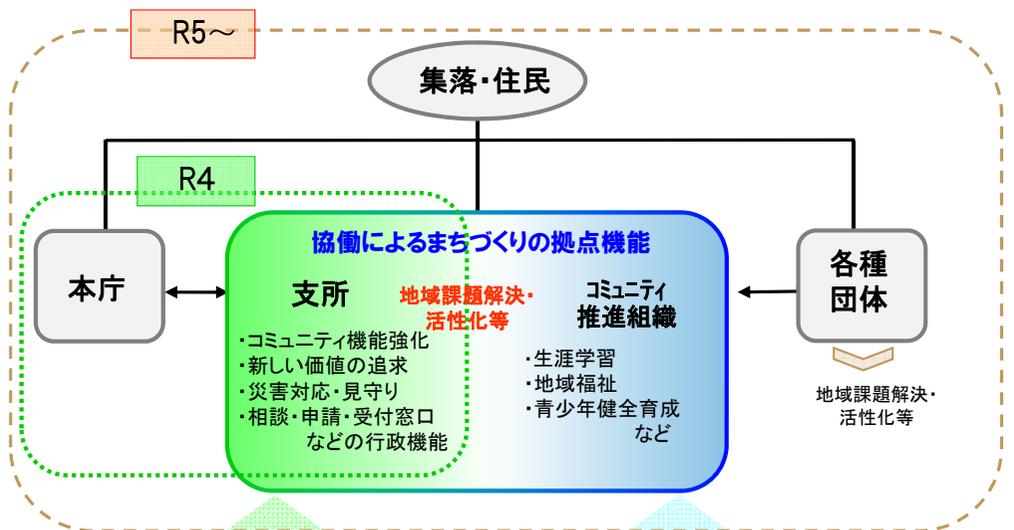
- R3年度4月～支所機能の見直しの検討
(本庁・支所の業務や役割分担の再構築)
コミュニティ推進組織、行政等が連携した新たな地域づくり体制の検討(R4も継続)
※地域委員会による検討や、将来のまちづくりに関する意見交換も随時開催(R4も継続)
- 7月 議会・地域委員会へ方針案説明
- 11月 議会等へ素案説明、パブリックコメントを実施
- 1月 議会等へ最終案説明
- R4年度 新たな本庁・支所業務体制のスタート
地域委員会の廃止(R4年度末)
- R5年度 コミュニティ推進組織と支所が連携した新たな地域づくり体制スタート

5. 現在のまちづくり体制



6. 新たな体制のイメージ

- ・コミュニティ推進組織、支所、地域団体等が連携して地域課題解決・活性化等を促進するとともに、住民の生活を支援する体制を構築
- ・支所と本庁がしっかりと連携・協力



地域の実情・将来像に合わせた支援の実施

◆支所が効果的に機能するための方策(案)

【コミュニティ機能の強化】

- ・組織の構築と拠点施設整備
- ・現在の地域活動の維持
- ・活動へのアドバイス、居場所づくりなど

【新しい価値を追求し希望を持ち続けられる施策】

- ・ICTを活用した移住定住人口の創出
- ・地域の宝の新たな活用・価値の創出
- ・地域資源のブランド化・ビジネス化支援

【災害対応・地域の見守り】

- ・機動的で柔軟な体制
- ・地域や業務に精通した職員の配置
- ・地域や民間と協働した情報収集や対応等(包括的市道管理業務の拡充・新設など)

【相談・申請・受付窓口】

- ・ICTやコンシェルジュの活用

◆コミュニティ推進組織への支援策(案)

【人的強化】

- ・センター職員、デジタル支援員、集落支援員等の必要なマンパワーを確保

【財政的強化】

- ・アイデアを実現するための予算(いきいきコミュニティ補助金等)

【物的支援】

- ・拠点施設整備・提供、備品供給

【情報の支援】

- ・職員研修、情報提供 など

※財源はふるさと創生基金等も充当



他の支所地域、長岡地域とも調和・連帯